

麻生多摩美の森だより

第9号 2005年6月30日発行 発行；麻生多摩美の森の会
発行責任者；勝田 政吾 編集者；木村 信夫

平成17年度の取組み

会長 勝田政吾

多摩美の森の会の活動は正式発足してから4年目に入り、地域の活動としてかなり定着して来ました。昨年度の同じ時期の号(第5号)に現状の整理に加えて問題点を3点(作業のマンネリ化・夏場における作業の重なり合い・参加人数の減少傾向)を挙げましたが、これは自然を相手とするボランティア活動の宿命のようなもので、完全解決する性質のものではなく、認識した上で改善に努力していくほかないと思います。

さて、そうした上で今年度の取組みと展望ですが、以下のような事柄を考えています。

(1) 自然観察の実施・定例化

作業をするといっても、地域の自然への理解なしにやたらと進めたのでは、かえって自然を破壊する事になりかねませんので、専門家の指導の下に観察会を定例化したいと考えます。幸い高橋英氏のご協力を得ることができ、既に2月、5月と2回行いました。倒木もやたら片付けるべきではない事を教えられました。又、北部公園事務所を通してかわさき自然調査団に近隣を含めた緑地全体の調査を依頼し、今後の活動方針を考える上での資料を作ってもらっています。

(2) 小学校との連携強化

昨年度は金程・西生田両校児童を相手に5回にわたり活動を行いました。ゆとり教育見直しの影響が心配されますが、今年度は更に

力を入れて行きたいと思っています。

(3) 分科会活動の明確化

分科会を設けてあるのですが、担当幹事も多忙のためかすべてがうまく機能してはいません。企画・立案がスムーズになされるよう工夫したいと思っています。

(4) 推進計画の見直しの検討

会の活動は平成13年3月に提言された「麻生区市民健康の森推進計画」にもとづいて行なわれています。この中の基本的な考え方4項目については変えないのですが、小項目について「小中学校への働きかけ」を加える事を検討しています。また、見直しの主な対象は、3年間進めてきた活動の中で作業計画が実情に沿わないものがあれば見直していこうというものです。

(5) 管理棟の計画

北部公園事務所を訪問した際、平成18年度に着手できそうだという話がありました。早速、計画プロジェクトチーム(リーダー間野幹事)を立上げ、案を作成して提出することになりました。

以上の他、連絡網の確立やホームページの作成など課題は数多くありますので、会員の皆様の積極的な提案、参加を期待しております。ともかく本年も楽しく作業を進めてまいりましょう。作業後の懇談会もなるべく頻繁に行いたいと思っています。

「新緑の森の観察会」開催される

副会長 長澤 宗幸

日時；平成 17 年 5 月 16 日（月）10～12 時
講師；高橋 英氏（自然観察専門員）

高橋さんの指導による、麻生区市民健康の森の観察会は今回で 2 回目となりました。

健康の森は、樹木や野草の種類が豊富で、自然豊かな森です。その森の豊かさを知るためにも、緑の個性を観察し、親しみを倍加するような観察会が行われました。

観察会のエピソードの一部を紹介します。

樹木の中でもとりわけ特徴ある木「アワブキ」を観察しましょう、この木は、切り口より「泡」を吹くためあまり好まれない木です。焚き火などにくべると火を消してしまうくらい泡が出ます。一同 あんぐり。



アワブキの花穂

（花の散った後、これも泡のよう？）

野草観察の中で、貴重種の一つ「ギンラン」を観察者が見つけた。先生より、近くにキンランはないでしょうか？すると、その近くに黄色みを帯びた花一輪。キンラン・ギンラン同時発見と一同歓喜に沸くが

先生いわく、これはギンランの花期が終りになったものでキンランではないでしょう。一同 がっかり。

この森には、大変美味しい物があります。白い房状の花「ニセアカシヤ」（別名ハリエンジュ）天婦羅でいただくと、香りも良く美味しい。「クズ」のつる先芽もてんぷらに良い。一同 ぜひ食べたい!!

「クヌギ」の低木に、毛虫がいっぱい繁殖していて気持ち悪く、木のためにも良くないのでとの意見もあったが、自然界の中で昆虫も木を枯らすまでの食害はしないので、そのままにして置くのが良いとの、先生のご意見。一同 なっとく。

2 時間と短い時間でしたが、森は豊かな宝物だとの認識を深めた観察会でした。



5 月 16 日 森の観察会

会員募集中です 貴方も仲間
緑に包まれて森づくり、親子いっしょの
作業や自然体験も楽しい。どなたでも加入
できます。年会費 1000 円。体験参加も歓迎。
4 頁目の活動日においで下さい。

四季を感じ、のびのび遊べるところ

自主保育どんぐりだんご 飯野優子

私たちどんぐりだんごの原点は、仲間と火・水・土と存分にふれあい、子どもたち自身が経験を通してさまざまなことを学び取っていくのを見守る、という姿勢です。

けれど近隣の公園では存分に触れ合う自然がなかったり、子どもの自由な遊びをよしとしない雰囲気があったりと、毎日の活動をするなかにも随分葛藤がありました。

そんな中、昨年11月の収穫祭にお誘いを受けたのが、健康の森との出会い。自然の環境を守るために多くの人が草刈りや清掃などを行っていて、とても居心地のよい場所だと感じました。子どもたちもとても気に入って、泥だらけになりながらひとりひとりが興味ある遊びを見つけています。自由に遊べる野山で泥んこになりながら、四季の移ろいを体で感じてほしい。今年は活動拠点として健康の森で週1度遊ぶ予定です。

ただ、公園を利用する者として清掃や草刈りなどの作業へも参加してみるものの、子どもと一緒になかなか戦力にならないのが現状ですが、そんな私たちに「大人が作業するのを見ることも、子どもにとっての大事な仕事だからね」などと言ってくださる方々にとても助けられています。子どもとともに大人にとっても気持ちのよい、活動に欠かせない場所となっています。

クワをふるって畑起こしに挑戦



ウグイスとアズマネザサ

岡村克彦

ウグイスは、研究者の話によると、アズマネザサの繁茂している藪などの中で巣を作り、子育てをしているそうですが、私は実際にそれを見た事はありません。

「健康の森」の南側には、ちょうどそのようなササ藪があり、春になると、早朝から庭先にウグイスの囀りが聞こえてきて、近くに住んでいる者にとっては幸せを感じさせてくれます。ここ数年来、ウグイスの巣に託卵するホトトギスの鳴き声も聞こえてきます。野鳥の種類が一時よりも増えてきたのでしょうか？

豊かな緑にたくさんの昆虫が息づき、やがてそこに鳥たちが集まってきて、私たちを楽しませてくれるのですから、ぜひ、今のままの姿であってほしい...と願っています。

地元の方の話では、この周辺は昔は畑だったようですが、20年以上も放置されていて、今のようにアズマネザサが繁殖し、最近では小鳥に害を及ぼす「ネコ」やカラス等がこの藪に侵入できないほどの密度に繁ってきたので、やっと小鳥たちが安心して営巣できるようになってきた訳です。

これが「森の生態系」で、自然の成り行きです。せっかく「自然の力」だけで素晴らしい恩恵を私たちに与えてくれているのですから「自然の自助力」を信じて、人の手を加えずその教えるところに従いたい...と考えています。



ウグイス
(え・曾我千文会員)

開発地のアジサイを移転

木村信夫

細山7丁目の尾根沿い斜面地の開発計画が進み、その縁に地域の人たちが植えて楽しんできたアジサイも消滅の運命、という事態が生じた。多摩美の森に散策にくる中沢さんから、引取り打診の電話があり、下見に行くとヤマアジサイ・アマチャも含めて貴重な株が30本くらい、ほかにヤマブキ・サンショウ・ガマズミなども数本あった。

多摩美の森は、現地とはランド遊園地交差点あたりを経て尾根続きであり、これら木々の第二の生育場所としては申し分ない。

5月29日(日)午前、麻生多摩美の森の会、多摩美みどりの会、こもれびの会の合同で、抜取り・移転作業を実施した。当日は、これまで木々の世話をされてきた箕輪永太郎さんから数名の方が朝早くから抜取りに協力してくれたこと、また搬送用トラックをレンタルしたこともあり、スムーズに作業が進んだ。

みどりの会では当日に多摩美公園内の歩道のわきに植付けし、ほかは大部分を健康の森の苗木床にいったん仮植えし、あと随時予定地に本植えした。当会では、森の入口の歩道沿いと、くつろぎの場である藤棚周辺に数本植えた。また抜取りのさいに切った枝を挿し木してあるので、今後の森づくり計画のなかで修景用低木として活用できる。



夏の活動予定

副会長 平林 謙三

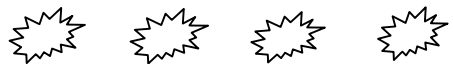
麦の収穫とサツマイモ・サトイモの苗の植付けも終わり、いよいよ夏草茂る草刈りの季節です。皆さん暑さにまけないように頑張りましょう。

活動予定は次のようになります。

-
- 7月2日(土) 草刈り、苗木・畑の手入れ、清掃など。
 - 17日(日) 草刈り、苗木・畑の手入れ、清掃など。
 - 8月6日(土) 草刈り、苗木・畑の手入れ、清掃、蕎麦の種まきなど。
 - 21日(日) 草刈り、苗木・畑の手入れ、清掃など。
 - 9月3日(土) 草刈り、苗木・畑の手入れ、清掃など。
 - 18日(日) 草刈り、苗木・畑の手入れ、清掃など。

.....

なお作業時間は9時から11時です。また草の伸長が早いので予備日の活用も必要になると思われます。予備日は7月13日、27日、8月10日、24日、9月14日、28日です。



広報編集室から 意見交換の場

会長の年度方針にあるように、推進計画の確認・見直しの時期に入り、さまざまな課題が出てくる中、広報は皆さんの議論の場、その記録の役割も担っていきます。今号では、岡村会員のアズマネザサの葎についての見解を掲載しましたが、諸テーマについて皆さんのご意見をお寄せ下さい。

連絡・投稿先

木村信夫 044-954-7855
fwhp6921@mb.infoweb.ne.jp
森 正昭 044-951-1089
BYA15610@nifty.com